

第4回 総合計画審議会 議事要旨

■日 時 令和3年3月31日（水）14時30分～16時00分

■場 所 消防局庁舎4階災害対策本部室

■出席者 【委員】

高見沢実委員長

岡本琳南委員、小川喜久雄委員、小原信治委員、菊池匡文委員、菊地萌歌委員、北村明美委員、小泉純一委員、櫻井聡委員、鈴木立也委員、相馬希咲委員、高橋恭子委員、鳥澤一晃委員、馬場亮委員、宮田丈乃委員、村田範之委員、山本愛子委員、好村明理彩委員

（以上18名、50音順）

（欠席：伊藤秀俊委員、門井秀孝委員、島由紀子委員、千葉理恵子委員、牧瀬稔委員、若松滋俊委員）

【事務局】

平澤経営企画部長、宮川都市戦略課長、太田主査、山中

■傍聴者 市議会議員2名 その他1名

■議事内容

- 1 次期基本構想・基本計画草稿について
- 2 現在までの意見聴取状況について
- 3 令和3年度のスケジュール予定について
- 4 その他

14時30分 開 会

- 1 次期基本構想・基本計画草稿について
- 2 現在までの意見聴取状況について

(事務局)

- ・今年度3回にわたり、総合計画審議会の委員の皆様には分野別未来像について議論いただいた。その議論の内容を踏まえて【資料1-1 次期基本構想・基本計画草稿（たたき台）】を改定したので、その内容をご説明する。
- ・また、これまで総合計画審議会をはじめとして【資料2 令和2年度意見聴取状況一覧】の通り様々な属性の方々から、多くの意見をいただいた。これらの意見も取りまとめ、草稿に反映している。
- ・草稿の変更については【資料1-2 草稿の変更概要について】をお配りしたので、資料1-1の草稿と見比べながら、変更箇所をご確認いただければと思う。

～ 資料1-2に沿って事務局から説明を行った ～

(高見沢委員長)

- ・ただいま事務局から草稿の変更概要、意見聴取の状況について説明を受けた。資料2の意見聴取状況一覧については、この審議会での意見だけでなくこれだけ多くの方々から意見を伺い、今回に至ったということだと思う。
- ・それからスケジュールを申し上げると、今回の審議会で分野別未来像の3章は、ほぼ固まることになると思う。本日は、この分野別未来像の内容あるいは事務局の説明に関してご意見ご質問を出していただき、大体このような形で3章がまとまってもいいよという感じにしていきたいと思う。

(小原委員)

- ・方向性が固まってきたので、細かい表現で気になる点が出てきた。
- ・福祉の冒頭3行について、「人は誰もが幸せになるために生まれてきます」というのは決めつけに聞こえる人もいるのではないか。また、「金銭的なことや心身のことなどが、この可能性を閉じ込めてしまうことがあります」というのは、お金がなかったり、心身に不自由があったら幸せじゃないのかと取られてしまうのではないか。さらに、阻害要因という言葉は難しい。代案としては「すべての人には幸せになる権利があります」「何をもって幸せかは人それぞれだが、その人が思い描く幸せに手が届かないことがある場合、その声に耳を傾けたり、必要があればサポートする」といった、もう少しやわらかい、決めつけが少ない表現にし

たほうがよいように感じた。

(事務局)

- ・この総合計画審議会や市議会特別委員会でも、誰もが分かりやすい平易な表現を使うというご指摘をいただいている。分かりにくい表現や人によってはとらえ方が異なるような表現は、今のご意見も含め全体的に精査していく。

(小原委員)

- ・同様の趣旨で、随所に「稼ぐ」という言葉がでてくる。言わんとしてることは分かるが、言葉のかたさが気になる。やわらかい表現にした方がよいのではないか。

(事務局)

- ・以前の指摘で、福祉で「稼ぐ」というのは違和感があるということで見直した。しかし、場面によっては「稼ぐ」という視点も必要なことはあると思うので、その他「稼ぐ」という表現がある所は、我々としては一旦そのままよいという考え方を持っている。

(鳥澤委員)

- ・何回も意見聴取を重ね、大変な時間をかけてまとめられている。中身については非常に完成度の高い内容だと思う。細かいところはあるかもしれないが、大きな方針としては特に異論はない。ただ、専門的な観点から二点指摘したい。
- ・防災・安全のところ「高い確率での発生が予測されている都心南部直下地震」とあるが、適切な表現ではないように思われるので、修正を検討していただきたい。都心南部直下地震は内閣府の中央防災会議が地震被害想定の中で首都直下地震の一つとして設定した地震であり、高い確率と書かれているのは30年間で70%という確率のことを意識して書かれていると思うが、それは首都圏のどこかで30年間で70%の確率でマグニチュード7クラスの地震が起こるというもので、都心南部直下地震の発生確率を指すものではない。首都圏の地震環境は関東平野の堆積層が厚く活断層を見つけにくいことや、プレートが3枚重なっていて複雑な環境にあることにより、特定の震源が決められない状況にある。そのため、防災政策上首都機能に影響を与える地震ということで12の地震が設定されており、そのうちの一つが都心南部直下地震である。都心南部直下地震に相当する活断層があるというわけではないし、過去にそこで地震が起きたというわけでもない。ここで地震が起きたら影響が大きいだろうということで決めた地震である。都心南部直下地震の発生確率が30年間70%と受け取れるような表現は適切でないと思われる
- ・横須賀市で言うと、実は都心南部直下地震による影響は大きくない。市内で想定されるのは震度5強から6弱程度であり、耐震性の低い木造建物が傾く可能性はあるが、基本的に健全な建物が倒壊することはない。室内で家具が倒れてけがをするということはあるが、大きな震災になることはない。以上から、一点目

としては、高い確率で都心南部直下地震というのは、首都直下地震という大枠でのとらえ方で修正していただいた方がよいと思われる。

- ・二点目は、想定する地震は都心南部直下地震より他の地震の方が良いのではないかということである。具体的に言うと、横須賀市のホームページにも震度マップが出ている大正型関東地震の方がよいと思われる。これはいわゆる関東大震災の再来を想定したもので、市全域で震度6強から震度7となり、非常に大きな被害が想定される。ただし、関東地震は平均して200年に1回起こる地震であり、前回起きたのが約100年前の1923年9月1日であることから、次に起こるまでにおよそ100年くらいかかるので、切迫性は高くない。関東地震を対象に挙げるとすれば、高い確率での発生というところは違う表現の方がいいと思う。

(事務局)

- ・関係部局と調整し、表現を見直していきたいと思う。

(菊池匡委員)

- ・防災・安全のところで、企業向けのことだが、事業継続計画いわゆるBCP計画の策定がかなり注目をされていて、さらに事業継続力強化計画というものもある。やはり、災害が起こった時は、計画を策定していた企業は復旧が早い。この場は、どうしても市民の方々が中心になると思うが、企業の復旧が、早くなることにより社会生活全般の立て直しが急速に進むので、BCP計画の推奨についても入れておいた方がよいのではないか。

(事務局)

- ・関係部局と調整し、記載をしていきたいと思う。

(高見沢委員長)

- ・関連するところとして「被災しても機能不全に陥らないまち」や「ライフラインを強靱化し」と書いてあるが、企業など具体的なイメージができない感じがする。検討をお願いします。

(小川委員)

- ・防災の教育について、小学校での教育という視点が抜けている。例えば、静岡県富士市では、地域と小学校で防災教育をやっている。子どもの時から、自分たちの地域はどうなんだろうかという意識を芽生えさせる防災教育の視点が必要ではないか。

(事務局)

- ・政策方針案に「災害や犯罪に対する正しい知識と体験を持つことを目的とした、普及啓発」と示している。おっしゃる通り防災教育という言葉をここに加えてもよいかと思うので、関係部局と調整して検討したい。

(高橋委員)

- ・福祉について、このような方向性、政策方針案と全体に関して異論は全くないが、

表現の部分で気になるところがいくつかある。

- ・「生きている全員が福祉の対象」という表現は、社会で生活している人たち誰もがという意味だと思うが、社会とか生活とかそういうところを福祉は対象としているので、そのような表現にさせていただけるとよいのではないかと。
- ・「誰もが福祉の中の一員である」の、福祉の中のものも分かりにくい表現なので、例えば福祉社会の一員であるとかそのような表現がよいのではないかと。
- ・「どうしたら話しやすくなるかを考えます」というのは、繋がりやすいとか、相談しやすいとか、そういうことをおっしゃりたいと思うので表現を考えていただけたらと思う。
- ・「本人の同意を原則に情報共有すること」だが、これはここだけではないと思うので、こう出てくるのはすごく違和感があり削られてもよいのではないかと。
- ・全体的に「常に考えます」や「今以上に考えます」といった、心意気が感じられる文章だが、計画そのものが今以上に考えていくというものだと思うので、こういった表現がここだけ入っているというのも、違和感がありそのあたりは全体的に修正をご検討いただけたらと思う。
- ・「高齢者や障害者、介護状態にある人、その家族を支えるといった福祉の仕事をする人を育てたり、今のまま活躍してもらうために、研修などの教育を充実します。」の文章について、ここで大事なのは研修というよりも、誰もが働きやすい職場環境だと思う。そこがなくて、辞めてしまう、続けられないという状況になっているので、研修も入れていただいて結構だが誰もが働きやすい職場環境を入れていただきたい。
- ・「多様性を受け止める意識」のところは、受け止めるという受動的な感じではなくて、もっと積極的に多様性を尊重するとか、これは全体にわたってそういった姿勢で記載いただけるとありがたいと思う。

(事務局)

- ・関係部局と調整し修正を検討する。

(岡本委員)

- ・福祉で「時として金銭的なことが、この可能性を閉じ込めてしまうことがあります」とあるが、右の政策方針案では、金銭的な困り事により選択肢や生活が制限されている方々へ、横須賀市がどうサポートするかという視点がないと感じたのでご検討いただきたい。

(事務局)

- ・小原委員からも金銭的なことという表現について、ご意見をいただいているので併せて検討したいと思う。

(小原委員)

- ・全体的なことだが、未来をこういうふうにつけていく、こういうふうに変えてい

くということが主眼とされている気がする。今ある良いものとか、変わらないためにこれは守っていくとか、今すでにできているものもあると思う。今が全部ダメで、全部変えていかなければならないという感じに読めてしまうので、変えてはいけないものがあります、変えないようにしますというような視点も入るといいなと思う。

(事務局)

- ・確かに、未来像はバックキャストという考え方で、将来を見据え将来目指すところを考えた上で記載しているので、今を見つめてないというように見えるかもしれない。しかし、そこを意識していないわけではないので、今のことについて伝わる表現を必要に応じて、検討し直していければと思う。

(鈴木委員)

- ・福祉について、小中学生が見てもよく分かるように、例えば「誰もが福祉の中の一員である」というのは「誰もが福祉の仲間である」でいいのではないか。また「おせっかい」は「やさしい気持ちから始まる」。全般的に私は見て納得できるが、もう少し若い子にも分かるように優しくしたほうが良いと福祉については思う。

(事務局)

- ・小学生の高学年でも分かりやすく理解できるような表現ということは、市議会特別委員会でも言われているので、その視点で全体的に分かりやすい表現に努めたいと思う。

(村田委員)

- ・海洋のところで「海洋プラスチックごみの削減」と書かれていて、確かに海洋プラスチックは今の流行の言葉なので、記載したい気持ちは分かる。しかし、海洋のごみはプラスチックだけではなく、また、プラスチックごみというのは陸上にもたくさんあるし、この会議室の空気にもマイクロプラスチックが含まれている。10年後を見るのであれば、海洋プラスチックごみではなくプラスチックごみ全体を削減するというので、海洋を取るのも一つの手なのかと思う。

(事務局)

- ・ご指摘の通り、海洋に限ったことではない。ここについては、特に具体的な海の取り組みとしてこのように表現したが、環境のところでも、ごみを減らすということを書いているので、そこも含めて表現を考えていきたい。

(宮田委員)

- ・子育て・教育の部分で、時代的にオンライン教育の導入は大事だと思う。しかし、そうした中でも、やはり学校生活の中で友達との関わり、対面的なコミュニケーション力を大切にしていくということも大事ではないかと思う。そのことは「人間性の豊かさと基礎学力」と表現されているが、そういう友達関係、人間性のバランスがとれるような学校生活ができるとよいと思う。将来、子どもたちが大人

になった時、自分が育ったまちに誇りを持てるような、次の世代に伝えられるような、まちにしていったらいいと思う。

(事務局)

- ・人間性の豊かさということだけでなく、より具体的に友達との関わりといったような表現も入れた方が分かりやすく意識に根付くと思うので、どこかに表現を入れたいと思う。

(櫻井委員)

- ・子育て・教育で「経済的な格差や家庭環境によって」という部分があるが、これに関して、政策方針案で経済的な格差の解消について触れてない。これについて不安に思っている保護者の方が多くいると思う。例えば、共働き家庭で、子どもを学童に預けて残業しても、残業代が全部、学童にかかってしまう。また、学費やPTA会費が払えないような環境の方がいらっしゃるので、こういったところを支援できるように、また例えば、会社に子どもを連れていけるような環境の拡充などを検討していただけるとありがたい。

(事務局)

- ・経済的な部分に関しては、政策方針案の「妊娠する前から子育て期にわたるまで、切れ目ない支援」で包含して表現している。ただ、より具体的に示した方がそういった市民の方々の不安感を拭えるというご意見をいただいたので、検討したいと思う。

(北村委員)

- ・福祉分野の「介護施設など福祉関係の施設で働く人たちを助けるために、業務の効率化につながる」の部分は、その通りであるが、健康・医療にあるような「人は人にしかできない対面型ケアに集中できるようにし」という意味合いもあるので、そのことも入れていただけると、働きたくなる福祉現場にもつながるのではないかと。先進の技術と自分たちが持っている技術両方を上手く活用して、利用者の皆さんに向き合うということを入れていただけるとありがたい。
- ・先ほど防災のところでもBCPの話が出たが、福祉施設でもBCPの作成については求められているので、そちらも入れていただきたい。

(事務局)

- ・福祉に関しては、まさに人にしかできないものに注力するということが非常に重要な視点なので、その表現については入れたいと思う。
- ・福祉分野でのBCPに関しては、それぞれの分野に入れていくのか、どこかの分野でまとめて入れるのかといったことを担当部局とも調整させていただきたい。

(宮田委員)

- ・子育て・教育で「いくつになっても育てあうまち」とあるが、これは「市民、すべての人が、子どもと子育てに関わるまち」の方がよいと思う。そういう社会を

実現できたらよいと思う。

(事務局)

- ・「いくつになっても育てあうまち」は、育てるだけではなくお互い成長していくという意味合いで、このような表現にしている。いただいたご意見ももつともで、このタイトルになるかどうかはここでは言えないが、どこかにその思いが分かるようにしていきたいと思う。

(馬場委員)

- ・観光・文化について「市民一人ひとりが地元の魅力を認識し、おもてなしの心を持ち、横須賀が一体となって、来てくれた人に楽しんでもらうという意識を醸成します」と書いてある。域外の方に来ていただいて関係人口を増やし、域内消費を増やしていくことが観光の目的になると思うが、その前に、域内の方に自分たちのまちを楽しんでいただいて、その上で、それを発信していくという形に付け加えていただけるとありがたいと思う。

(事務局)

- ・確かに域内の方が、しっかりと自分の地域を楽しんでいくという視点が必要だと思うので記載するようにしたい。

(山本委員)

- ・観光・文化だけ括弧で「音楽、スポーツ、エンターテインメント」となっているが、この三つにしているのには何かこだわりがあるのか。例えば、美術や工芸、ダンス、デザインなど様々なクリエイティブティが横須賀にはあると思うので、括弧書きは逆でない方がよいと思う。以下の文章で、それぞれの言葉が入っていた方が、自分事としてとらえる人が増えると思う。

(事務局)

- ・まさに今、市が行っている政策の中心として「音楽、スポーツ、エンターテインメント」を入れているが、ご指摘の通り色々なジャンルがあるので、こういった表現がいいのか考えていきたいと思う。

(高見沢委員長)

- ・この括弧は、観光・文化の両方にかかるのか、文化にかかるのか、どちらのつもりか。

(事務局)

- ・市が推し進めている政策を「音楽、スポーツ、エンターテインメント」と表現しているの、それに倣っている。エンターテインメントで多くを包含しているが、ご指摘いただいた部分も含めて適切な表現を考えていきたいと思う。

(鈴木委員)

- ・全体を見て、生真面目な感じがする。小中学生、高校生の皆さんに見ていただいてどのような意見が出たか。私が子どもたちと付き合っていると、もうちょっと

表現力が豊かな言葉が出てくると思うがどうだったか。

(事務局)

- ・小中学生、高校生には、この案を見せて感想を聞いたということはなく、伺った内容としては、「あなたたちが大人になったときに、横須賀はどういうまちであったらいいか」というような視点で主に意見を聞いた。その中では「自然が豊かであって欲しい」、「安心安全であって欲しい」、あとは特徴的なものとして「都会過ぎず田舎過ぎない、この環境を残したい」というような意見を多くいただいた。なので、この表現についてという意味では、小中学生、高校生からは意見をいただいている。

3 令和3年度のスケジュール予定について

(事務局)

- ・次回の審議会は5月下旬頃の開催を予定している。議題は、本日いただいた意見をどう修正したかということと、今まで議論いただいた分野別未来像をどう市全体の未来像としてまとめていくか。また、根底に流れる価値観、未来に向かって大切にしなければいけない、守っていかなければいけない心を議論いただきたいと考えている。
- ・7月は、8月にパブリックコメントの実施を予定しているため、その前にパブリックコメント案についてご意見をいただく。
- ・10月は、そのパブリックコメントを踏まえた案をもとに全体的な議論をし、答申をいただく。

4 その他

(1) 市の未来像、根底に流れる価値観について

(高見沢委員長)

- ・時間があるので、スケジュールでは次回の議論となっているが、【資料1-1 次期基本構想・基本計画草稿（たたき台）】の市の未来像、価値観について少し議論できればと思う。事務局にこの部分の説明をお願いします。

(事務局)

- ・市全体の未来像、そして根底に流れる価値観として、その未来像に進むにあたり忘れてはならない心を示していく予定。
- ・現在の計画では、都市像という表現で「国際海の手文化都市」を平成9年に策定し掲げている。草稿では新たな未来像をイメージしていただくため、事務局で案を作成し例示している。都市の姿をイメージする言葉、市の姿勢を示す言葉、人の心を示す言葉など、色々な形の未来像があると思う。いずれの形であったとしても、市民の方々に希望と力を与えられるような未来像にしたいと考えている。
- ・未来像の下には、その解説を示す予定である。現在の「国際海の手文化都市」は文章の形で解説を示しているが、より多くの人に共感してもらうため、例えば小説の形や詩のような形など、様々な形を幅広く検討していきたいと考えている。
- ・本日は、市の未来像や未来へ進むにあたり忘れてはいけない心、大切にしなければならない心は、こういうものがあるのではないかというものを、その構成なども含めて自由にアイデアをいただければと思う。

(高見沢委員長)

- ・未来像は一つに絞るのか、五つくらい並べるのか、ありったけ出すのか、順番や意味があるのか、それらも含めて意見を欲しいということか。

(事務局)

- ・未来像については好みがあるので、私はこの言葉が嫌いだとか、私はこういう言葉がいいとかということ多数決で決めるものではないと思う。最後は、議会、市にお任せいただくことになるものだとということをご承知おきいただきたい。
- ・未来像を一つにするのか、三つ、五つにするのかは白紙である。どちらかというところ、本日、未来像の好き嫌いを伺っても、そうしましょうというふうにお答えができないので、根底に流れる価値観として、横須賀市が2030年に向けて、どういふことを大切にして行政を行っていかなければならないのか。市民の皆様と行政はどういう関係性を大事にしていかなきゃいけないのか、そういったことをご自身の分野で構わないので、キーワードを聞かせていただきたい。それを事務局で修正し案を作成していくのでヒントをいただきたい。

(高見沢委員長)

- ・なるべく率直にハートが伝わるように、その想いをそのまま述べていただく。自由に想いを述べ合うという感じがよろしいかと思う。何かキャッチフレーズにすればこんな感じということでもいいと思う。

(岡本委員)

- ・個人的にはこの価値観という言葉に違和感を覚えていて、あと、計画の根底に流れる思想、哲学という言葉も引っかかった。なぜかというところ、価値観とは、もの見方や考え方で、同一に語るの難しいという印象がある。哲学も同様で、人によって考え方が違い、物事に対してずっと向き合い問い続けていくような姿勢という印象がある。なのでここで言うと、理念とかそういう言葉の方が私には、しっくりくるなと感じている。

(事務局)

- ・価値観という言葉は決まっているものではないので、広くご意見をいただきたいと思うが、おっしゃられた理念というのは皆が追い求めていく、目標のようなものだと思う。もちろんそれも大事だが、ここに書きたいのは、その皆が追い求めていく横須賀の将来に向かって、何を心にとめて、同じ気持ちを持っていて、ともに進んでいくためには何が必要かということを書きたいと思っている。それを書くにあたっては理念がないと書けないし、タイトルをどうするかということも、白紙なので皆様のご意見をいただきながら考えていきたい。

(岡本委員)

- ・市民全員で共有していくものという印象があるので、それを表現するフレーズが、みんなで納得できるような形になればいいと思う。

(鳥澤委員)

- ・根底に流れる価値観のところ、何を大事にしたいのか、忘れてはならない心として、私の中でピンときたのは、資料を送っていただく封筒の裏面に書いてある横須賀市の市民憲章が初めに思い浮かんだ。何を大事にしたいのか、忘れてはな

らない心という意味づけがこの市民憲章にもあるのではないかと思う。文章的にも練られており、よくできている。総合計画審議会での未来像や価値観に関する視点には、市民憲章も継承した形で文章ができるとよいのではないかと考えた。

- ・あと、近年では、今後の社会のあり方を議論するとき、SDGsの考え方が参照されることが多いと思う。資料の「誰も一人にさせない」というところに関して、SDGsに「誰一人取り残さない」という近い観点があり、その辺りも踏まえると世の中の流れや考え方の方向性に沿ったものになるのではないかと思う。

(事務局)

- ・市民憲章は、現在の基本構想を作った後に作ったものである。今回、新たに基本構想・基本計画を作るが、根底で流れていることは同じ部分があり、それも踏まえながら考えていければと思っている。市民憲章は今も残っているので、それを外に置いてという考え方は持っていない。

(高見沢委員長)

- ・皆さん、色々な立場あるいは立場ではなく、個人としての想いもあるかと思うので、率直に発言いただければと思う。

(小原委員)

- ・後半は、未来はこう変わるということが主題になっていて、変わりたくない人からすると、こんなに変わっちゃうということが、寂しかったり、不安だったりする人もきっといると思う。だからこそ、この価値観では変わらないものをちゃんと書かなければいけないと思う。それは、難しいことでもなければ、時流に乗ったことでもなくて、「思いやり」とか「やさしさ」みたいな、普遍的で、今もある、忘れちゃいけない、大事にしなければいけないこと、声高に言うほどのことでもないけれど、すごく大切なことのような気がする。

(事務局)

- ・大事なことだと思う。先ほど、小原委員が言われた変わらないことを分野別のところに全部ちりばめては書けないので、ここで強調して書かせていただけるとありがたいと思う。

(高見沢委員長)

- ・この部分と3章の中で未来の物語が書いてある。そこをよく読んでみるとそのようなことも書いてある。全体を通して、不安に陥らないようにチェックしていただければと思う。

(小原委員)

- ・立地条件について触れられていない。「国際海の手文化都市」は、横浜にも当てはまるようなことだが、何が横須賀の特徴かを考えると、半島というのは大きいと思う。半島はラテン語で「ほぼ島のようなもの」という訳だが、ここも島のようなものだと捉え直すと、島って思いやりがありそうだなとか、人がやさしそう

だとか、そういうイメージを想起させると思う。横須賀は半島ですと言うことで、今以上に色々なことをイメージしてもらいやすくなったりするのかなと思う。半島という言葉、半島というのはこういう意味ですよということを、どこかに書けると違って見えるという気がした。

(事務局)

- ・市長が半島の独自性ということは常々思っていて、横須賀は独自の歴史と文化と、強い半島性という意味で言うと、人がすごい良くて、皆さん優しくて、コミュニティが昔から都会に比べて強いところだというような認識を非常に持って市政にあたっている。それを常々、市の姿勢として言っているのも、そうした人と人との繋がりだとか、思いやりだとかということは、半島だからという結びつきはなかなかできないが、そういった横須賀の市民の方々の特性というか良いところを私たちも感じているところなので、例示に書いてあるが、きちんと書いていきたいと思う。

(鈴木委員)

- ・半島ということで、以前お話したと思うが、横須賀の人間は人情がある。軍港都市で若い人たちが兵隊さんでくるということで、それを横須賀の人たちがみんな非常に大事にしたということもあると思う。半島について書く中で、私の言ったことも書いていただきたい。

(2) 次回の予定について

(事務局)

- ・次回会議の開催は、5月末を予定している。日程については、改めてご通知させていただきます。

16時00分 閉会

(以上)